22PO-pm396

栄養相談から見える薬局の役割

○板本 圭造[1], 片山 りゑ[1], 黒川 くるみ[1], 二反田 龍彦[1], 菅原 淳[1], 榎本 奈津子[1], 飯田 剛広[1], 井野 千枝子[1], 大倉 康[1]（[1]なの花北海道）

【目的】近年かかりつけ薬剤師や健康サポート薬局の制度が開始され、調剤主体の薬局には薬物治療だけではなく、地域の方々の健康全般のサポートも求められている。今後より良い服薬指導やセルフメディケーションの促進につなげるために、当グループ薬局で行っている管理栄養士の栄養相談内容の分析調査を行った。

【方法】弊社グループ薬局道南エリア日高地区にて、平成 29 年 1 月～平成 30 年 1 月までに栄養相談を行った 31 名を対象とし、管理栄養士が作成した指導記録や薬歴から、年齢・男女比・栄養相談を受けようとしたきっかけ・相談回数・相談内容・薬物治療の有無を集計し、比較した。

【結果】対象者は男性 11 名（35%）女性 20 名（65%）、年齢層は 60 代以上で全体の 78%を占めていた。相談内容としては生活習慣病に関連する相談が多く、血糖値・糖分について 22.9%、体重の減量・維持が 16.4%、中性脂肪・コレステロールについて 9.8%であった。前述の相談内容別に関連薬物治療の有無を確認したところ、生活習慣病薬を複数使用者が 57.6%、該当の生活習慣病薬のみの服用者が 30.3%、生活習慣病薬未使用者は 12.1%であり、未使用者の中でも生活習慣病関連の相談が 44%と多かった。また、栄養指導のみで血液検査の数値が改善したケースや、栄養指導だけでは改善が難しく病院受診につながったケースもあった。

【考察】今回の結果から、薬局利用者の中に内服薬の服用の有無にかかわらず生活習慣病に関する栄養面を含めた説明を薬局で受けたい方がいることを再確認できた。今後は薬物治療の指導以外にも、栄養面など治療全般のサポートを踏まえた服薬指導が重要と思われる。管理栄養士との連携、医療相談窓口としての対応、セルフメディケーション促進のための商品選定も併せて重要であると示唆された。